

# 中国人の沈黙に関する研究

—中国人大学生への調査を通して—

金 文

## 1. 研究目的

本論文の目的は、中国人大学生144名にたいし行なったアンケート調査とヒヤリング調査の結果を分析し、日本人やアメリカ人と比較しながら、異文化コミュニケーション論の方法論より、中国人の「沈黙観」を明らかにすることにある。

## 2. 先行研究

東洋と西洋の言語観を中心に沈黙に関する先行研究を行ない、中国人の「沈黙観」は日本などのアジア諸国との区別されずに、東洋思想の一環とされることが多い。一方、中国国内では、言語観の視点から、沈黙に関する古代文献研究が中心となり、実証研究が少ないことも判明した。

## 3. 調査分析

筆者は以上のような問題意識のもとで、中国人の沈黙観についての調査を行った。調査結果に基づき、以下のような分析ができた。

中国人はコミュニケーションに関しては、東洋的な含蓄な一面がある一方、沈黙がコミュニケーション能力の欠如だと見なされる一面も存在している。「遠慮」や「察し」に以心伝心の無口の美学を感じる日本と違い、中国では、コミュニケーションにおける沈黙を言語による発言の準備ステージだと考えている人が多いのである。このステージで、いらないことばを削り、質の発言を整えるのである。つまり、中国人の沈黙に対する考えは、無言というより、実は慎言の考えの裏返しである。

次に、中国人の沈黙に対する解釈も肯定的な意味と否定的な意味の両方がある。中国人にとっての沈黙の肯定的な意味を支えているのは、実はことばを区切り、強調したり、またことばによるメッセージを相手の心に浸透させるための「間（マ）、またはポーズ」という沈黙時間である。一方、否定的な沈黙の意味を「反発としての沈黙」と「反発できないときの沈黙」という二つのパターンに分けることができる。一つ目は反発としての沈黙である。口に出すよりも黙っているほうが効果的という意味である。対人コミュニケーションにおいては、軽蔑、怒り、無視などマイナスな感情を表す時には、よく沈黙する形でその感情を表すことが多い。もう一つは反発できない時の沈黙である。いわゆる、権力、立場、人間関係など環境的な要素によって、反発できないと諦めるときに使われる沈黙である。よくあるのは、従順、無関心、困惑、抑

圧、賛成できないなどの気持ちを表すときである。そして、中国人は自分に役立たないものを避けるときにも沈黙を使うのである。要するに、中国人にとっての沈黙は、積極的な意味より、消極的な意味を感じる人が多いのである。また、人間関係におけるコミュニケーションの時は、沈黙の使い方によって、上下関係を明らかにする。下とされる人が、上とされる人に対する敬意の表しでもある一方、反発できない無言の反応でもある。

最後に、時間軸から、中国人の沈黙観を見ていくと、沈黙に対する考え方や見方は誤解された部分はあるが、その本質には変化がないと思われる。その一方、グローバル化社会などの時代の影響で、言語コミュニケーション能力に対する要求が以前より大幅に上昇することによって、ことばを慎む考えは以前より低下していると考えられる。

## 4. 結論と今後の課題

本研究により、以下の結論を出すことができた。①中国では、コミュニケーションにおける沈黙を発話、発言の準備ステージと考える人が多い。②中国人の沈黙に対する解釈は、「間（マ）またはポーズを取る」という肯定的な意味と「反発としての沈黙」という否定的な意味の両方が含まれるが、積極的な意味解釈よりも、消極的な意味解釈の傾向が強い。③グローバル化時代のもとで、中国においても、言語コミュニケーション能力の向上が以前より重要視され、従来の口を慎むという言語行動の規範が弱体化に向かいつつある状態にある。

また、今後の課題として、まずは、研究対象について、異文化コミュニケーションにおける課題を研究するには、成熟かつ代表性のある社会人（例えば、企業人）をとり上げる必要がある。そして、研究領域については、「沈黙観」の延長線にある「言語観」から動的な視点から研究を進めるべきである。